

『幼児のあそび空間を考える』

幼児のあそび空間づくり

1. 部屋づくりの一番の視点は、子どもたちが快く感じる事。
2. 部屋のある部分（家具など）が常に変わらない事によって、安心感を高める事ができる。
3. 部屋の中のあそびがどれだけ見通せるかどうか、子どもと保育者の両方にとって大切。
4. 落ち着いた空間（描画活動コーナー、食事のコーナー）。
5. 子どもたちの運動欲求を満たす事の出来る空間。
6. あそびの空間を作る時に、あそびに参加している人数に応じて空間を広げたり狭めたり、空間同士をつなげたり分けたりできる。
7. 子どもの空間づくりの欲求を満たすためには、保育者が彼らの行為を励まし、支援することで、あそびのための空間づくりはクラスの習慣となる。
8. 病院・美容院など、使う頻度の少ないコーナーは、常時設定するする必要は無い。

幼児 あそびの種類

1. 練習あそび：並べる、積むなど。
2. 構成あそび：創りだす行為。
3. 役割あそび：幼児期で最も子どもを発達させるあそびです。

テーマは子どもの体験による。

4. ルールあそび：ゲーム、集団あそび等。

ルール意識が出来て楽しめるのは5、6歳頃。

子どもは何をあそんでいるのか？①その子の体験、経験をあそんでいる。②子どもに選択の可能性を与える。

具体的あそびのルール

1. 子どもは自由にあそびを選ぶ事ができる。
2. 子ども達は、自分が想像したあそびを行うために、どんな遊具・道具でも使う事ができる。
3. あそびの目的に合わせて、室内を小さな棚で仕切りコーナーの広さを変えたり、アイデアに合わせて利用する事ができる。
4. あそぶ時は、家具や遊具は大切にする。
5. 他の子どものあそびや、そのあそび空間も尊重する。
6. あそび終わった遊具は、元の場所に戻す。
7. 一日に2回、外遊びに移動する時と帰る時に、部屋

全体を片付ける。

8. 友達が使っている遊具を使いたい場合は、状況に合わせて貸してもらったり分け合ったりする。
 9. あそびの中で、いつでも仲間や保育士に助けを求める事ができる。
- ☆ 保育士は、子ども達にあそびのルールを伝える事。
ルールが守られているか確認する事。ルールの守りかたを練習させること。それを助ける事。